

令和3年8月31日

昔のアニメで「はいからさんが通る」というのがありまして、タイトルを言うと、「それってナンノ（南野陽子）のヤツですよ」という方が多いのですが、そうではなくて、あくまでアニメなんです、小さい頃によく観てました。

何がそんなにいいのか、と言われると、ストーリーやキャラクターではなく、主題歌が好きだったのと、なにより大正時代の原風景に今とは違う良さを感じたのだと思います。なにかと便利な現代とは違うのですが、街並みにしても田園にしても、素朴な美しさがあり、またホッと安堵させてくれます。そういえば、今流行りの「鬼滅の刃」はまさに時代設定が大正時代ですね。「鬼滅の刃」はストーリーがしっかりしていて、キャラクターが印象的なので、人気が出る要素は十分に備えているわけですが、それに加えてこの大正時代という背景が作品の質を高めているように思います。

「鬼滅の刃」のキャラクターが各々特徴的なので、その目で「プリキュア」の絵を見ると、いやあ5人並んでいても全部同じ顔に見えてしまいます。色で区別をつけるんだと思うわけですが、これをジグソーパズルで最初からやるとなかなか大変です。5歳の娘と一緒に挑戦しても、なにしろ同じ顔に見えますので、結構難しく、だんだん嫌気がさしてきて、「ちょっと休憩」と立ち上がってジグソーパズル全体を見下ろすと、あら不思議、「あのパーツはここにはまってこのパーツはあそこにいけるわ」とすごく分かりやすくなりました。

なるほど、これはいわゆる「木を見て森を見ず」だったわけで、俯瞰すると物事の全体が見えてくるという、どこかの研修で教わったアレですね。鳥の目を持つことの大事さ。仕事に行き詰まったら、一度引いて見てみると、問題点に気づく。今自分は、物事全体のどのポジションにいるのかを客観視することができるわけですね。

アニメのジグソーパズルで再認識させられるとは思いませんでしたが、皆さんも、何か行き詰った時に、鳥のようにスーッと上に飛び立って、全体を眺めてみてはいかがでしょうか。きっとハッと気づくものがあると思います。

以上